

令和3年度 美馬市立三島小学校 学校評価総括表

美馬市立三島小学校長 藤田 俊明

(学校教育目標)
人間尊重の精神を基盤とし、調和のとれた心豊かな感性や自主的・創造的に生きようとする実践力を培い、心身ともに健康でたくましい子どもを育てる。

校訓
自 主
協 同
奉 仕

めざす子ども像
・伸びる学校
・美しい学校
・進んで助け合う子
・楽しい学校
・進んで考える子
・進んで働く子

学級数	児童数	教職員数
7	58	14

項目	令和3年度 重点目標	評価項目	自己評価		今後の課題・改善策		
			評価	理由			
I 学校組織の充実 チーム三島	教育目標 心豊かな感性や自主的創造的に生きようとする実践力の育成	学校教育目標を具現化する学級目標のもと、めざす子ども像が達成できている。	B	B	子どもの成長に合わせて、めざす学級の目標を修正してきた。 校務分掌に負担を感じた時は、ヘルプサインを出せるようにする。 情報を共有し、気軽に話し合える環境で、「報連相」ができた。 質を落とさず効率を上げる働き方への意識が醸成された。		
	学校経営 学校教育目標達成をめざした協働体制の確立	校務分掌が公平に分担され、適切な指導の下、意欲的に取り組める環境にある。	B				
	学校運営 全教職員の意欲と創意を結集する学校運営	風通しの良い、教職員間の信頼関係に基づいた教育活動ができている。	B				
	働き方改革 意識改革と業務改善を進め、業務の効率化の推進	I C Tを活用し、業務の効率化を図ることで、子どもと向き合う時間を確保している。	B				
	教育計画 計画・実践・評価・改善による教育活動の推進	新しい要素を取り入れたり、工夫したりすることができている。	B				
II 学びの深化	学習指導 体験・課題解決学習による、自ら学び自ら考える児童の育成	指導方法の工夫改善に努め、基礎基本の定着に努めている。	B	B	教材研究に励み、子どもたちが成長できる授業実践ができた。 子どもが必要感をもって学習課題に取り組める工夫に努めた。 「家庭読書の日」周知する等、家庭での読書の習慣化を図りたい。 オンラインで積極的な研修を実践し、学級で生かすことができた。		
	図書館教育 読書の習慣化を実現し、思考力や読解力の育成	読書の習慣化を図り、思考力や読解力を育成する。	B				
	研修 使命感と意欲的な研修による教師力の向上	各種研修に積極的に参加し、学級の指導に生かすことができる。	B				
	一人一人が活躍	差別や偏見のない学級集団づくりに努め、全教科・領域で人権教育の推進に努めている。	B				
III 一人一人が活躍	心教育 教材や体験を通じた、日常生活における道徳実践力の向上	教科等との関連を重視した道徳の時間を直し、道徳的価値が自覚できるようにする。	B	B	人権感覚を磨き、差別や偏見を見逃さない雰囲気醸成した。 道徳的価値を内面的に自覚できる指導方法の工夫・改善に努めた。 問題行動の早期発見で計画的な生徒指導に努めてきた。 個の特性や教育的ニーズの把握に努め、適切な支援をしていく。 徒歩通学や外遊びを奨励し、運動習慣の定着を図った。		
	生徒指導 人間的ふれあいを密にした生徒指導の充実	家庭と連携し、組織的な生徒指導で、基本的な生活習慣の定着に努める。	B				
	特別支援教育 児童の実態把握を的確に行い、個に応じた支援方法の実践	関係機関と連携し、全教職員の共通理解のもと、個に応じた支援方法に努める。	B				
	保健・安全 心身の調和的発達をめざした健康の保持や体力の向上	安全・健康・体の成長に留意させるための、はたらきかけを日常的に行う。	B				
	グロウアップ 総合的な学習 よりよく問題解決する力と生涯学習の基礎となる「生きる力」	一人ひとりに課題意識をもたせ、生きる力を育成するための効果的な指導方法に努める。	B			B	コロナ禍においても工夫して体験できる活動の模索が必要である。 コロナ禍であったが、G Tや各種団体との交流は充実していた。 コロナ禍での異文化交流は十分行うことができなかった。 I C Tの活用は広がったが、効果的な活用方法の研究が必要。
	地域との連携 情報を発信し、目標の共有化と地域との協力体制を構築	体験活動や交流活動を通して、豊かな心を育成し、H P等で情報を発信する。	B				
IV グロウアップ 育成人材	国際化・情報化 国際感覚を養う教育活動の充実とI C Tの効果的な利活用の推進	国際感覚の育成に努めるとともに、I C Tの効果的な活用の研究に努めている。	B				

評価基準 A：達成できた（85%以上） B：ほぼ達成できた（70%以上85%未満） C：十分できなかった（50%以上70%未満） D：さらに努力を要する（50%未満）

◆学校関係者評価委員会の評価

コロナ禍であったが、学校と保護者が感染状況を踏まえて、アイデアを出しながら子どものことを一番に考えた教育活動が進められていた。I C Tの活用も活発で、よく取り組んでいることが分かる。先生方の指導により、子ども達は、コロナ前と変わらず、地域の方々に挨拶もしっかりできており、三島の子は素直でかわいと感じる。感染症が収束し、今まで以上に子どもと触れあうことで、学校を理解していきたいと思う。

◆評価結果と次年度についての校長所見

コロナ禍での1年間であったが、徹底した感染症拡大防止策をとりながら、重点課題の達成に向けて取り組んできた。一人一人の子どもを全教職員で育てる「チーム三島」が充実してきた。I C Tを校務だけでなく授業にも積極的に取り入れることで学習活動が広がり、一人一人に応じた課題設定に繋がりがつある。引き続き、この特性をしっかり共有した教育活動を展開していきたい。